

## 東海経済レポート（2014年2月）

～景気回復基調が続く中、海外経済動向等がリスクに～

経済調査室（名古屋）

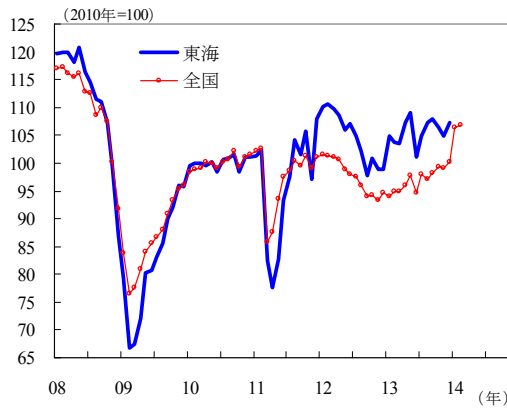
### 1. 足元の経済情勢

- ✓ 生産は、12月は前月比+2.3%と3ヵ月振りに増加。電子部品・デバイスが大幅に増加し、全体を牽引。
- ✓ 輸出（金額、円ベース）は、12月に前月比▲2.5%と3ヵ月振りに減少したが、引き続き高水準を維持。
- ✓ 設備投資については、その先行指標である金属工作機械の国内受注額が、12月は前年比+64.5%と5ヵ月連続でプラス。
- ✓ 雇用では、12月の愛知県の有効求人倍率が1.49倍と2008年9月と同水準まで上昇。他県でも同様に上昇。
- ✓ 個人消費では、12月の新車販売台数が前年比+24.6%と、2桁の伸び率となった。同月のスーパー・コンビニ等小売主要3業態の販売は前年比+3.5%と、プラス基調で推移。住宅着工は、12月も年率換算で8万戸超のペースを維持し、底堅く推移。

### 2. 当面の注目点・リスク要因

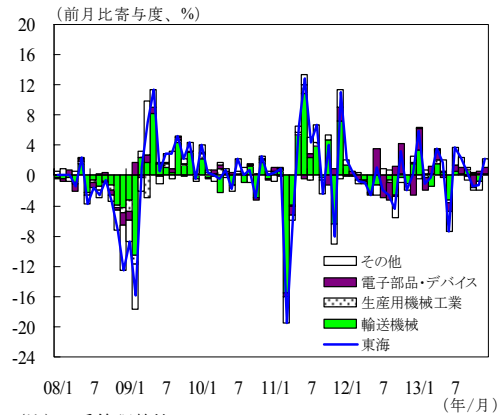
- ✓ 年明け後、米中の経済指標が弱含み、また中国シャドーバンキング問題と新興国からの資金流出・通貨下落懸念がくすぶる中で、米国FRBが資産買入れ額の更なる減額を決定。これを受け、新興国経済に対する悲観的な見方が強まり、世界的に株価が下落。
- ✓ 足元、金融市場の弱気ムードは徐々に改善しつつあるが、中国のシャドーバンキング問題や一部新興国のインフレ・経常赤字問題の解決には時間が必要で、折に触れ資金流出懸念が再燃する虞がある。また、日本では消費増税が控えており、不透明感の払拭は容易ではない。
- ✓ このような環境下、東海経済にとっての当面の注目点は、①新興国経済の低迷長期化による輸出への悪影響、②ベアを含む賃上げ動向、③本邦成長戦略および財政再建の具体的前進、の3点と考える。

**生産①** 12月の鉱工業生産指数は前月比+2.3%と、3ヵ月振りに増加。



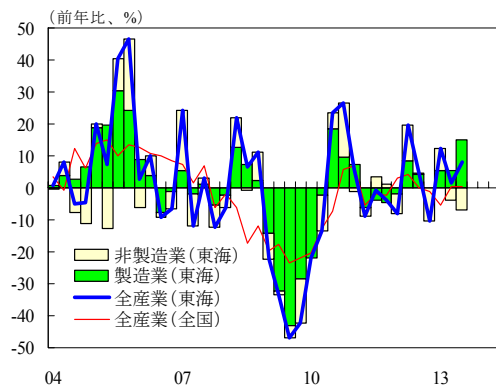
(注) 1. 季節調整値  
2. 東海は愛知・岐阜・三重の3県  
(資料) 中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**生産②** 業種別では、電子部品・デバイスが大幅に増加し、全体を牽引。



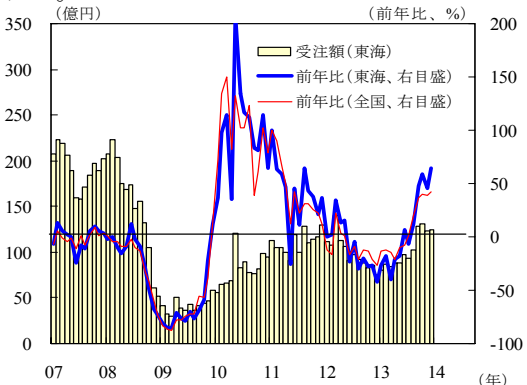
(注) 1. 季節調整値  
2. 東海は愛知・岐阜・三重の3県  
(資料) 中部経済産業局「管内鉱工業の動向」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**設備投資** 7-9月期の資本金10億円以上の大企業の設備投資(除くソフトウェア)は、前年比+7.9%と、プラス幅が拡大。



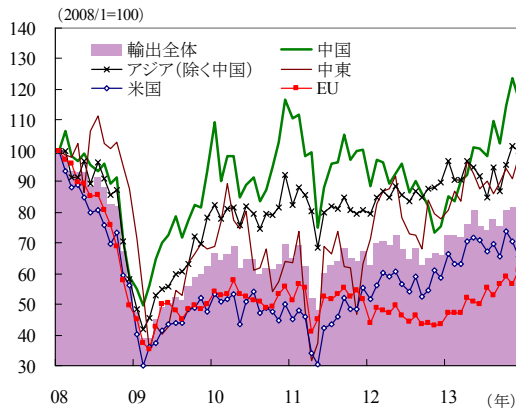
(注) 1. 東海は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県  
2. 資本金10億円以上の企業を対象  
(資料) 東海財務局「四半期別法人企業統計調査」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**金属工作機械受注(国内)** 設備投資の先行指標である金属工作機械の国内受注額は、12月は前年比+64.5%と5ヵ月連続でプラス。



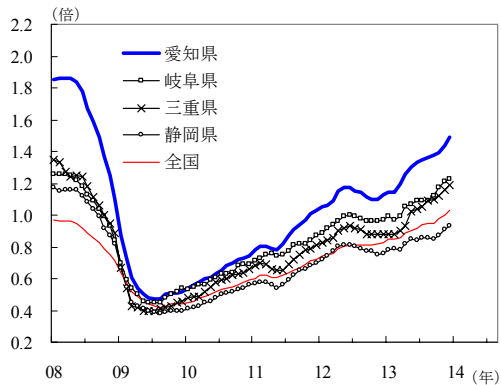
(注) 1. 東海は中部経済産業局管内の主要8社  
2. 受注額は当室による季節調整値  
(資料) 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」等より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**輸出** 12月の輸出額(円ベース)は、前月比▲2.5%と3ヵ月振りに減少。



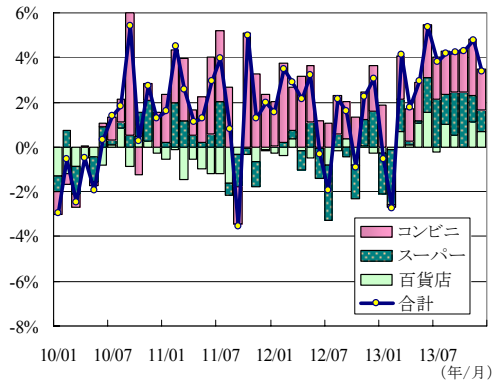
(注) 当室による季節調整値  
(資料) 財務省「貿易統計」、名古屋税関「管内貿易概況」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**雇用** 12月の愛知県の有効求人倍率は1.49倍と、2008年9月と同水準まで上昇。他県でも同様に上昇。



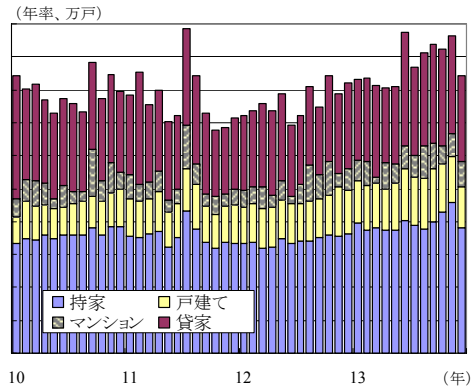
(注) 1. 有効求人倍率=有効求人数/有効求職者数  
2. 季節調整値  
(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」より  
三菱東京UFJ銀行 経済調査室作成

**個人消費** 12月の小売主要3業態の販売は前年比+3.5%と、10ヵ月連続でプラス。



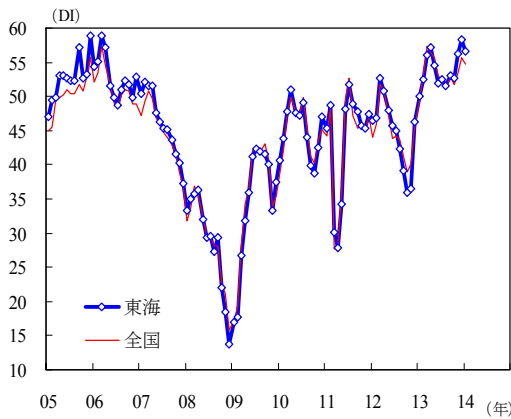
(注)1. 東海は愛知・岐阜・三重・富山・石川の5県  
2. 当室による季節調整値  
(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**住宅投資** 12月の住宅着工戸数は、年率換算で8.4万戸と、底堅く推移。



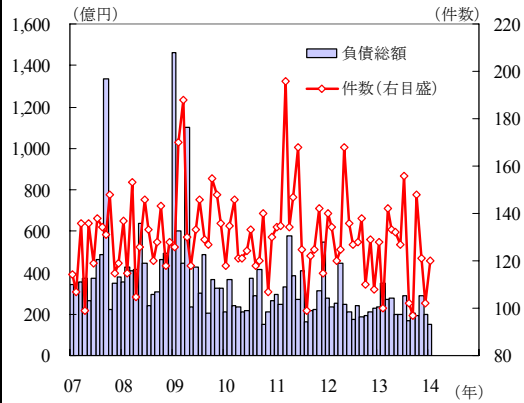
(注) 東海は愛知・岐阜・三重の3県  
(資料) 国土交通省「建築着工統計」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**景気ウォッチャー調査** 1月の景気現状判断DIは+56.6と、3ヵ月振りに小反落。



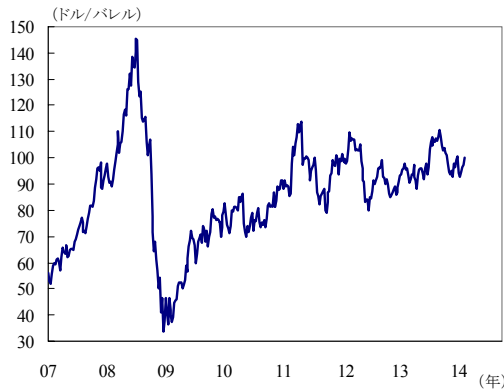
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**倒産件数** 1月の企業倒産件数は120件、前年比で▲6.3%の減少。負債総額も同▲36.5%と減少。



(注) 愛知・岐阜・三重・静岡・長野の5県  
(資料) 東京商工リサーチ「倒産月報」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**原油価格** 米国での記録的な寒波で暖房油などの在庫が減少し、100ドル台まで上昇。



(注) 原油価格はWTI先物  
(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**円相場・株価** 円相場は、米中の弱い経済指標や新興国からの資金流出懸念の再燃などを受け、一時101円程度まで上昇。株式は、円高とリスク回避の動きを背景に、一時14,000円付近まで下落。



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H26.2.19 富田 潤 jiyun\_tomida@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。